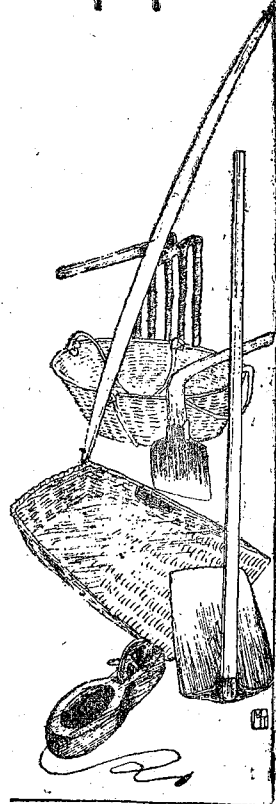


史料



はしがき

宇宙の萬象は變轉極まりなく、世の文化は日一日と進んで止むことがない、故に新しき研究は吾等の心臓の鼓動と等しく一刻も怠つてはならない要務に屬するのである。道路の改良も畢竟文化の促進に貢獻せむとして叫ばれて居る聲であつて、本誌亦毎月新研究を紹介して讀者の參考に資して居るのであるが、新しい研究のみが吾等の研究せむとする全部ではない、温故知新の語は古今東西を通じての眞理である、先哲や名匠を究めなくとも古刹伽藍を探らなくとも、古人の彫刻や建築に對する苦心研究の跡は、名もない一技工や小川の一橋梁にも認められ、其の血の出る様な研鑽の面影と技巧の確實練達とは、探つて以て吾人の範とすべきものが少くない。本誌は此の趣旨の下に本月號より史料欄を設けて道路橋梁等に關する史實を紹介することとした、讀者諸彦の參考資料ともなれば幸である。(田中幹事)

錦帶橋

山口縣玖珂郡岩國町地内錦帶橋

本橋は舊國道四號路線同町地内錦川に懸り、橋長百拾間五分、

幅員二間七分の木造拱橋にして、俗に之を算盤橋と稱す。

錦帶橋は、延寶元年癸丑岩國舊藩主吉川監物廣嘉公の創設

に係る。吉川家の始祖、三郎經義公(駿河國吉川村に住し建久五年卒す)十七世

の孫藏人頭廣嘉公が慶長五年出雲國富田城より岩國に封せら

るゝや横山北隅の絶嶺に築城し、治所を其の東麓に定む、此

地亦横山と稱す。(廣家公より三世の後、廣家公の時に至り城は既に廢毀せり。)此横山郭東

門の前に川あり錦川と稱し、北より流れ來りて帶狀をなせり此川暴雨洪水の時横山錦見の間渡舟の杜絶すること數日、諸士相隔絶せられて警備の道を失ふ。公深く之を憂慮すと雖も急流箭の如く、術の施すべきものなし、公一日カキ餅を焚き

其の弓狀をなすを視て之を並列し、試に橋に擬したるに（説に簀を集め之を）架空の形狀甚だ面白し、大に悦びて曰く、架組立つとも云ふ

橋の法を得たり此の如くんば決して流失の危に遭ふことあらざるべしと、此に於て兒玉九右衛門といへるを召し出し、（或は佐伯某とも云ふ）親しく此の法を授け架橋の計畫を樹てしむ。

同年六月八日卯の上刻石臺の蹴初めを爲し、（石は諸村より取る）東西堤防に添ひて二個、中央に四個、合せて六臺石を疊みて築き上げ臺となし、五橋を其上に架す。三橋は反り橋にして東西に二橋柱あり。（或説に二橋は芝土を以て上を覆ふ故に後世土橋の稱ありと）此の昔請中公は萬屋谷奥に居を構へ、毎に現場に赴きて橋を望むに或は扇を開き、又は弓曲の狀を擬し、以て形を定められしと云ふ。

（此家宅には後年朝枝某世々住居し今は小野氏の有たり、此家表座敷は橋に向ひ床柱構造等尋常に異り今猶舊態を其儘存せり）橋梁は彎曲甚しく、歩行に不便なるにより其間々に更に板を布き渡す。其形青海波に似たるを以て一時青海橋の稱あり。

同年十月朔日五橋成就し横山錦見兩側に橋守の家を建つ。同年十一月三日一家親睦の聞えある新庄村農清兵衛なるも

のを召し出し清兵衛夫妻、一家八人及女婿兒婦合せて十二人に渡り初めを命ぜられ、餅酒及俵十二荷を下賜せらる、是の歳慶長五年にして移封を距る七十四年なり、此時の職役は飯田甚左衛門手子役山田清右衛門戸津川久右衛門とす。

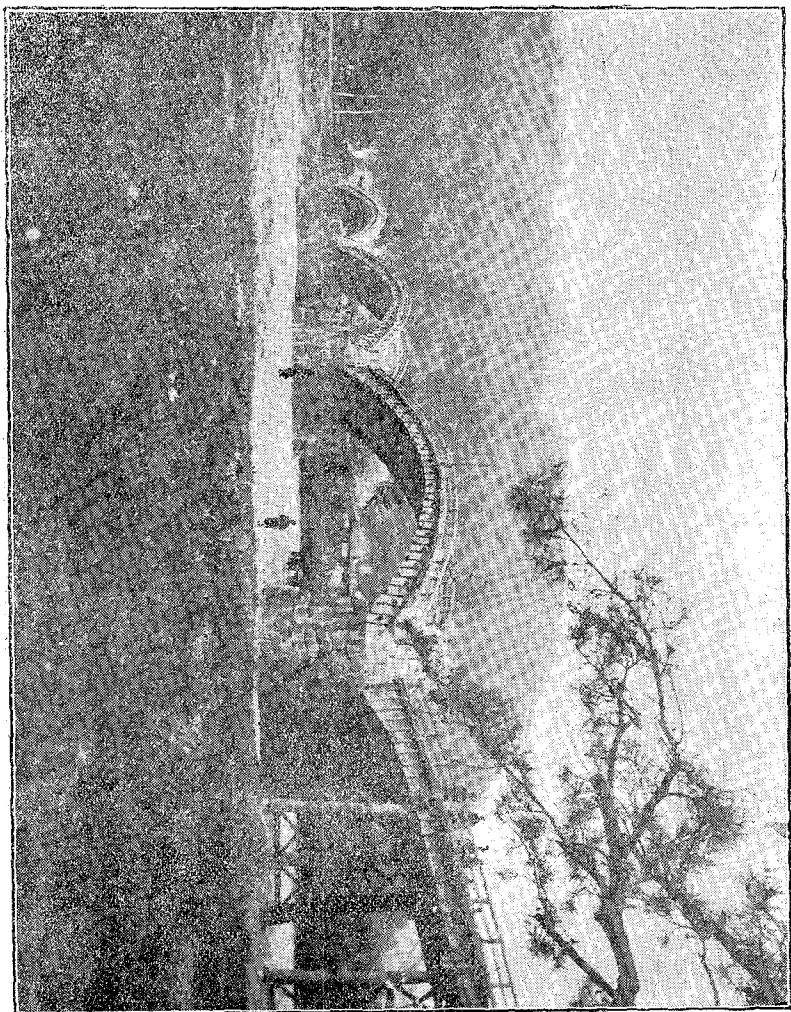
同月十一日架橋竣成御祝ありて工事中功勞ありし者に恩賞ありたり。

延寶二年甲寅五月二十八日前夜より濛雨おひて出水夥しく辰の下刻（朝五つ半時今午前八時頃）水勢大に増し、柵の木四十七本（横山に植）水に没す。此時中央の石臺崩れ中央反橋（拱橋とも書す）より東方西方と順次流失す。（橋柱二つは落ちず反橋は中津門前川へ流れ云）而して西方、中央の石臺は牢平不動にして、全きを得たり

此の橋臺は湯淺七右衛門高道なる者の築く所にして、是より七右衛門の名大に顯る。
「後延寶四年藩命を以て七右衛門及米村茂右衛門（平之進）二人を近江國穴庄村に派遣し、戸波駿河なるものに就いて、要害石垣建築法を學ばしむ。（川の下流河床敷石は戸波流とす敷石を打廻し其間に割石を小端立に追合せ其の表面は窪形に仕上げたり）二人共に免狀を得て歸る。

（湯淺家に傳はる免狀數卷あり。延寶四年九月廿日と記す。米原家に傳はる免狀卷物五折本二丈師家高弟某よりの附狀、延寶四年九月廿日と記）七右衛門後に安右衛門と改む、築石の功に依り増祿四石を賜ふ或は七右衛門此時師戸波に大に酒を勧め生松法を得

錦 帶 橋



て直に逃れ歸ると説く者あれども信すべからず」

此時横山内亦大に水溢れ、廣嘉公其他御水屋へ避難し諸士は萬徳院光壽院妙福寺等へ避けたりと。(此時水災に付家中大に儉約すべき旨の條々達せらる、以て城下の損害甚しきを知るべし)

同年六月朔日、再び工を起して架橋す、橋臺は石造にして中央四臺は上下其端菱形を成す。而して其の態形各小異あり是水勢を考察し、之れに應じて作れるなり。石臺下は生松編木を敷く、石臺敷石の上端に於て、廻り九丈七尺六寸、每臺寸尺多少の異動あり、横根石幅一丈三尺四寸、臺高基礎より上端まで四間、石垣仰ぎは、三間目迄は一間に付一尺三寸、上一間は六寸仰ぎなり。石臺は地を抜くこと二間四尺、上下兩角相距る五間二尺五寸、其上兩石相接する所は之に孔を鑿ち鉛を嵌入し、密着して動かざらしむ。角端を退く一間二尺にして高を増す六尺なり。

橋面は漆喰塗りとし行路とす。石臺は水底に至るまで細石を埋む、是石臺の内部を空虚とし、水を自由に上下せしめ浮動の憂なからしめむが爲なり。(内部の栗石は漲水の時)橋桁石臺内に止る所大なる切石に据え之を突埋め以て彈力を保有せしむ。

拱助は、支臺より中央に向つて次第に其の厚さを減じ各材

片は諸所に帶鐵物を以て卷付け、結合を堅牢ならしめ、拱助上には梁木及均木を横へ、拱形を與へ其上に敷設したるものにして、橋面は彎曲甚しく歩行不便なるを以て、中央には敷板を平坦に敷列するも、兩端約三十枚づゝは羽重ねに敷設して、階段狀をなし昇降に便ならしむ、されど車輪は到底此の上を通過せしむる事能はず。

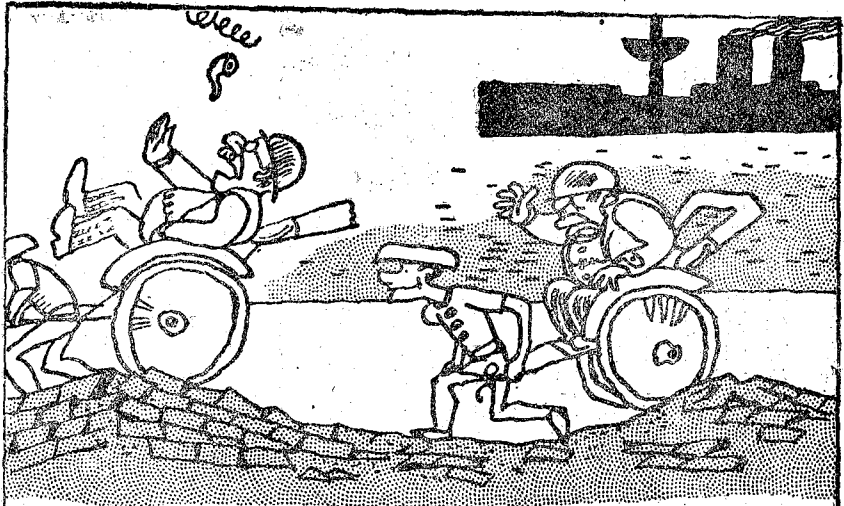
本構造上妙味を極めたるは五列の拱助を貫通してこれに直角に多數の橫梁を取付け、且拱助の兩面より鞍木として倒人字形の如くに二個の木を垂下し、之を鐵箍し之を桁に釘着するもの百五十箇餘を具備するの點にあり。蓋し荷重によりて、自ら拱助材を堅め付け且力を拱の全部に傳達し、以て構造を堅牢ならしむるが爲め此の工を施せるものなり。其技巧實に賞讃に値すと云ふべし。(鞍木は延寶六年)桁と桁との間に十字木を挟むもの八十個計り以て橋の左右動搖を制す。桁彎曲せるが故に行人重きを載すに隨ひ自ら鞏固となる。(三橋其の構造)橋柱は鞍木を十字形となし每橋長さ二十五間、幅二間四尺五寸彎曲最高所平水位面を距る五間四尺、五橋合せて長さ百二十五間とす。橋板厚さ二寸五分、華松を用ふ工事施行數年前之を伐採し置き、日に曝し雨に濡し、時に兩側を槌撃して縮減せしめたるが故に施工後濕を受け木理膨脹し各板

極密接し隙を生ずることなし、其相接する上を履ふに銅板條（橋腹壁）を以てし、雨水の侵入を防ぐ桁及較木は棒を用ふ。用材は之（皆里俗）を河内村倉谷山より伐採す。同所には特に之が用材として平（露珠に）を深く秘して世に洩さず、官の許さざりし所なり。

生植育し置けるものなり。是の歳十月十五日漸く架橋竣功す。同十一月三日本橋渡初めを大山村農三之允夫婦に命ぜら橋名を撰み、初め凌雲橋龍雲橋帶雲橋凹凸構などの稱ありし。此の人長壽にして子孫恙なく生育せるを以てなり。（完）

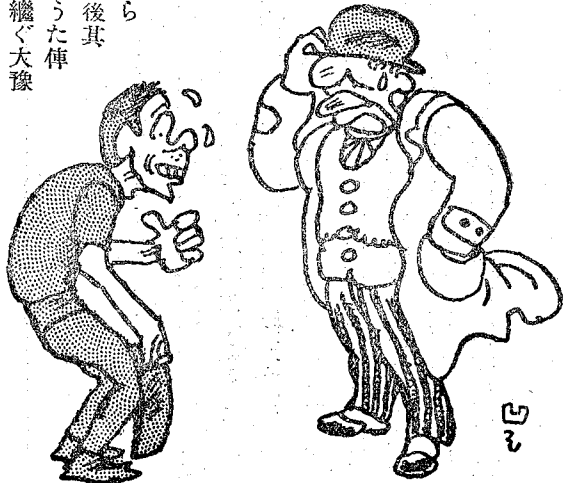
無煙都市計畫

内務省では、都市の煤煙防止策に付き考究を重ね『英國に於ける煙害防止に關する制度』は勿論所謂『無煙都市』の建造を研究して法規に依つて煙害を防止せんととの立案を急いでゐる右は市街地建築物法を改正して建築物の制限に附帶して火所、火燧に特別設備を規定せんとするに於て即ち煙突より吐き出す煤煙は主として石炭不完全燃焼に基くものであるに鑑み火爐の所にストーカー（完全燃焼器）を取付け之に依つて工場の煤煙は勿論市街地の暖房設備より來る煙害を防止し市民の衛生經濟を圖ると共に更に石炭の消費節約となる關係上國家的經濟をも促進する譯である。我が國の煤煙都市とて有名なる大阪市を煙害より救済せんとするに動機を發し之と共に復興後の東京市を無煙化せんとするにある前記ストーカーの設備は現在でも既に試みてゐる工場が各所にあつて實地調査の結果十分効果あるものと認め乘氣になつて來たが其費用は小設備にて三四千圓、大設備でも一萬圓には達しないので法令にて規定するも敢て多額の犠牲を拂はしむるものでないに依つて蒙る有形無形の利益は莫大なるものであるとて復興局、警視廳を初め關係各方面と共に近く具體的協議を爲す筈であると。



横濱の道路

こなひだ米國の巨
 船ヘルゲンランド
 號で數百名の金
 持ち達が觀光に
 横濱へ上陸したそ
 して云ひ合はした
 様に横濱の悪路を
 罵しつて居た一人の
 觀光客は下車してから
 俵屋に『横濱は震災後其
 儘ありますか』と問うた俵
 屋は『いゝへ東京に繼ぐ大豫
 算で道路を建造したばかりで
 す』と答へたので觀光客はあいた
 口が閉がらなかつたさうだ。





観光客「俵屋さん
此建物敷金七千圓高
過ぎるあります」

俵屋「私共もさう

思ひますよ。敷金が高い爲めに横濱の道路が悪いの
です。敷金さへ安くすれや道路は直に善くなります。
お解りになりませんか、つまり此家を七千圓で遊ば
せておかずに安くして仕舞ふのです。さうすると残
つた數千圓が道路の方へ向けられると云ふす法です
あ……………」
「ハッハッハッよく解つたあります」